熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2023.10.16
第 213号
発行 入試・広報課

交換研修体験記

コロナ禍のため中断していたタイ・コンケン大学、韓国・大邱保健大学との交換研修やGSLP（Global Student Leadership Program）が今夏、４年ぶりに再開されました。本学からは、コンケン大に６人、大邱保健大に10人を派遣、GSLPには４人を送り出しました。ひと夏の短期留学を体験した学生たちに感想を寄せてもらいました。

タイ・コンケン大

医学用語 英語で学ぶ必要性痛感

リハビリテーション学科
理学療法学専攻４年 瀬藤 璃音

私は、9月7日(木)～9月20日(水)の約２週間、タイのコンケン大学との交換留学に参加しました。参加したのは、リハビリテーション学科２人、医学検査学科２人、看護学科２人の計６人です。タイの様々な病院を見学し、コンケン大学の授業にも参加しただけでなく、同国の伝統的な文化などを体験することもできました。

私が最も興味深かったのは、スポーツサイエンスリハビリテーションの体験でした。今回、短期留学を志望した理由がスポーツリハビリテーションについて学ぶことだったため、コンケン大学の学生がスポーツの現場で実際に選手のケアをしていることを知ることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

一方で、強い衝撃を受けたこともありました。それは、日本で培った自分の知識を使うことができなかったことです。タイの大学では、解剖学などの医療関係の科目は母国語に訳されず、学生たちは英語で学んでいます。そのため、現場では英語で解剖学や運動学の話が飛び交い、私は話についていくことができませんでした。私も解剖学や運動学ならある程度理解しているので、日本語だったら議論をすることができます。しかし、英語となると質問内容すら理解しきれず、自分が伝えたいことを伝えることができませんでした。今後、研究職の道に進むことを考えている私にとって、英語での議論は必須であり、医療用語を英語で学ぶ必要性を痛感しました。

現在の日本は、医療用語を母国語で学ぶことができ、医療の理解を深めることにおいては有益です。しかし、ひとたび日本から出ると、私のように自分の意見を伝えることができずに悔しい思いをする人がいるはずです。今後の日本の医療の更なる発展のため、英語を用いた医療知識の構築が必要になるのではないでしょうか。

地元のジムでムエタイを体験する学生たち

コンケン大から車で約４時間のところにあるウドンタニでは、現地の伝統料理を味わった

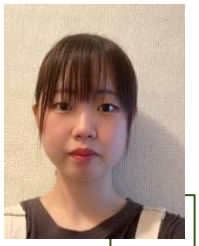
❖２０２３年度交換研修等派遣日程❖

＜コンケン大＞ ９月７～20日（６人：医検２、看護２、PT２）
＜大邱保健大＞ ８月16～26日 （10人：医検２、看護２、リハ６）
＜GSLP（大邱保健大）＞８月10～19日（４人：看護１、PT３）

次ページへ

文化や言語の違い 越えられる壁

交換研修体験記



韓国・大邱保健大
リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻1年　山内 佑夏

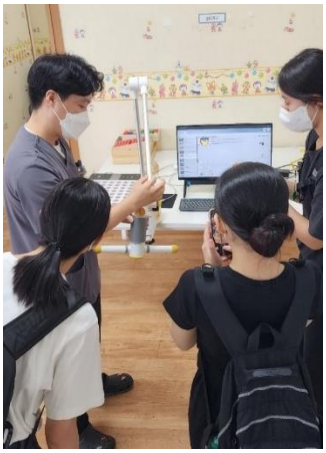
韓国の学生が熊本にいた時間も、私たちが韓国にいた時間もとても濃くて、充実した時間になりました。韓国では文化体験や病院見学、実習、観光、授業への参加などさまざまな活動を行いました。自分にとって初めての海外で、文化や言語の違いなど多くの不安がありましたが、韓国の学生も一緒に活動した日本人の学生の方々もとても優しく、サポートしてくれました。

病院見学ではサポート学生と大学の教授と一緒に２つの病院を見てまわりました。大学生になって初めての病院見学、実習が韓国だとは思ってもいませんでしたが、とても勉強になりました。病院側の方々も簡単な英語やアプリを使ってたくさん説明してくださり、質問にも答えてくださいました。日本で実習に行った時、比較できたり、視野や考え方を広げることができたりするのは自分の強みになると思います。

食べるものでも、毎食ごとに文化の違いを感じることができました。また、韓服も着ることができ、昔ながらの韓国を体験することができました。

毎日活動がたくさんあって、１日が過ぎるのがあっという間の10日間でした。この活動を通して、色々な場所で新しい出会いがあり、これからも大切にしていきたいと思っています。文化の違いや言語の違いは、韓国に行く前までとても大きな壁になると考えていました。しかし、実際に行ってみると、その違いはとても興味深いものであったし、少し工夫をすれば越えられない壁ではないことを感じました。熊保大、韓国のサポート学生の方々には色々な場面で助けてもらい、とても感謝しています。この活動を通して学んだこと、感じたことを大切にし、これから色々な活動に活かしていきたいです。

期間中に経験したK-POPダンスレッスン



病院を見学する本学からの参加者たち

Global Student Leadership Program（大邱保健大）

12カ国から参加…文化の多様性学ぶ

リハビリテーション学科
理学療法学専攻４年　柳田 寧々

８月10～19日、韓国の大邱保健大学で日本と韓国を含めて12カ国の学生が集まるプログラムに参加しました。

プログラム期間中はダウンタウンツアーやダンス、クッキングなどを通して韓国文化を学びました。そして、メインのLeadership Lectureでは2つの講義を受け、この２つの講義からグループディスカッションを行い、プレゼンまでしました。リーダーシップにはさまざまな要素があることや文化の多様性について学ぶことができました。また、各国の文化を紹介する機会もあり、私たちは「折り紙」を紹介しました。紙飛行機を全員で飛ばしてみましたが楽しんでくれている様子で、とても嬉しかったです。

私にとっては初めての海外で、最初は緊張して簡単な会話もドキドキでしたが、慣れてくると聞き取りもできるようになって英語を話すことへの抵抗感もなくなってきました。

たった10日間とは思えないほど、想像以上のものを学ぶことができました。海外の良いところとして、積極的に前に出る、それを受け入れる態度は特に印象的で、反対に、時間を守ることやごみをごみ箱に捨てることなど日本の良いところに改めて気づくこともできました。

12カ国の人が集まると、文化や習慣、価値観など本当にバラバラです。驚くこともありますが、それを知っていくことが面白くて、お互いがそれぞれの文化を受け入れて生活していました。ただ海外に行くのではなく、12カ国の人が集まって生活するという経験ができたこと、その中で感じたことはこれからも残り続けるのだろうと感じます。あの時に応募しようと決断して本当に良かったです。

本学ホームページ

操作性高め 5年ぶりリニューアル

本学のホームページ（HP）がリニューアルされ、６日（金）から新しいデザインに切り替わっています。各学科・専攻の学生５人が笑顔で歩む姿を「一歩、一歩、熊保。」とうたい上げたトップページ＝**写真**＝は、学生たちの夢の実現を後押しているかのよう。HPのリニューアルは、平成30年以来５年ぶりとなります。

全体として操作性が高いデザインとなっています。「受験生サイト」は爽やかさと親しみやすさを意識したレイアウトとなっています。

トップページを大きく表示し、写真がスライドする画面を作成、ページ左にメニューバー、同上に訪問者別メニューを設けアクセス性を高めました。また、本学担当者が直接情報を更新することができるCMS（Contents Management System）の機能を充実。土、日曜日など緊急時の更新が可能になることで、より充実した情報ツールとして活用できるようになりました。

今後、学内や学生の活動がよくわかる情報発信を心がけていくつもりです。

（入試・広報課）

助産別科17期生

演壇に立つ、助産別科の右から古川里梨香さん、安樂みこ都さん、佐伯美侑さん、田中美優さん、渡邊茉耶さん

性感染症、やせと不妊の関係説く

図書館主催の「私の部屋でランチを」が５日（木）、キャンパステラスで開催され、助産別科17期生の５人が「プレコンセプションケアのすすめ～私たちの身近にある健康の危機～不妊症・やせ・性感染症について～」と題して講演しました。

不妊の原因とされるものは、性感染症、やせ、飲酒・喫煙などさまざまですが、今回は性感染症とやせの問題をピックアップ。５人は、性感染症に感染する人が若い世代に多い実態を紹介した後、不妊につながる原因やその予防法などについて解説しました。一方、やせに関しても、極端な体重減少と不妊リスクの密接な関係に触れ、バランスの良い食事や運動を行い、無理なダイエットを避けるなどといった予防法を呼び掛けていました。

この日は学生の聴講も多く、若い世代の関心の高さを伺わせました。看護学科４年の学生は「同世代のテーマとして身近に考えられそう。梅毒やクラミジア・淋菌による性感染症の罹患者数など、提示された県内のデータからも、プレコンセプションケアを実施する必要性が感じられました」と話していました。（入試・広報課）